

8月19日~24日 クロアチア・ザグレブ  
**世界フィールドアーチェリー選手権出場!!**



# アーチェリー部 片岡恵里選手 リカーブ女子日本代表に決定!!!

アーチェリー部の片岡恵里選手は5月に開催された全日本選手権で予選2位となり、8月にクロアチア・ザグレブで開催される世界選手権の出場が決まりました。日本代表として活躍が期待される片岡選手に、八王子キャンパス・アーチェリー場では話を聞きました。

「高校でアーチェリーを始めた頃はまさか自分が日本代表に選ばれるとは想像もしていませんでした。拓大アーチェリー部で仲間たちと頑張ってきたおかげだと思っています。フィールドアーチェリーは山の中に設置された標的を射抜く競技です。標的までの距離が分からないアンマークコースなどがあり、平坦なフィールドで競う五輪競技のターゲットとは違った、技術と集中力が求められます。予選成績が世界選手権代表選考となった全日本では、無欲・無心で競技に集中できた結果、



「あこがれていた世界の舞台  
 まずは予選突破を目標に頑張ってきました!」  
 片岡恵里選手(高崎商科大附属高校)  
 商学部 経営学科4年



自分でも驚く成績が残せました。フィールドのリカーブ女子日本代表は1名しか代表枠がないので、とても名誉なことです。しかし、翌日の決勝ラウンドでは日本代表に決まった安堵感と、全日本初優勝がかかったプレッシャーから、集中力を欠き6位に順位を下げってしまったので、集中力の持続が今後の課題です。

フィールドアーチェリーは五輪種目に採用されていないので、2年に1度の世界選手権が最高の舞台になります。世界のレベルは高く、自分がどこまで進めるか分かりませんが、日本代表として恥ずかしくない戦いをしてきます!」

ひとくくろ

アーチェリー競技の種類

アーチェリーは弓で矢を射ち、標的上の得点を争う競技です。日本では主に、屋外の平坦なグラウンドで行う「ターゲット(オリンピック競技)」、自然の地形をいかして行う「フィールド」、屋内で行う「インドア」の3競技が行われています。

● フィールドアーチェリーとは

競技はリカーブ、コンパウンド、ベアボウの3部門。山の中や草原など、自然の地形をいかして変化をもたせたコースに、5mから60mの間に標的を設置。射ち上げ、射ち下ろしなど、特別なシューティングテクニックが求められる。また距離が表示されるマークコース(MK)と、されないアンマークコース(UMK)があり、アンマークはいかに距離を正確に読むかが大きなポイントとなる。

各競技で使用される弓の種類と形態

リカーブボウ

リムの先端が、逆反りした形状の弓。通常、サイト(照準器)、スタビライザー(振動を除去し安定させる棒)などのアクセサリーを装着する。

コンパウンドボウ

両リムの先端に付けられた偏心滑車の作用で、引き重量が途中で軽くなる弓。リリーサー(発射装置)の使用も認めらる。

ベアボウ

リカーブと同じ弓だが、弓の構成パーツがハンドルとリムに限られ、一部を除き、アクセサリーを使用することができない。

拓大アーチェリー部

拓大アーチェリー部は全日本学生アーチェリー連盟が結成された昭和37(1962)年に創部。八王子キャンパスのカレッジハウス扶桑隣に専用練習場がある。現在部員は男子29名、女子10名で、男女とも関東学生アーチェリー連盟1部リーグに所属。ほぼ毎年のように王座決定戦に進出し、優勝争いを繰り広げる。

創部50周年を記念して、アーチェリー部OB会から八王子キャンパスの練習場に射場の母屋、照明施設が寄付されることが決まり、今秋完成予定となっている。

